

バラ科 キジムシロ属

ミツバツチグリ (三葉土栗)

Potentilla freyniana Bornm.

自生環境

林縁、野原 など

原産地

日本在来

生育を脅かす要因



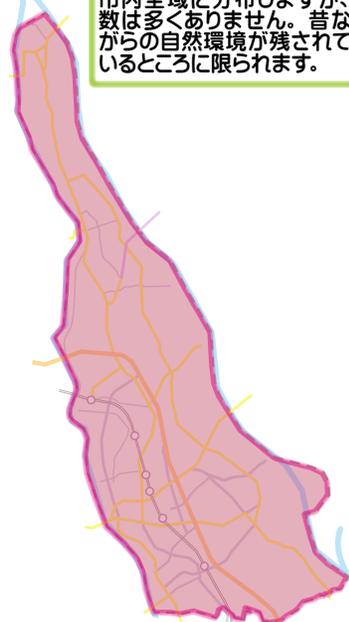
日当たりを好みますが、地面付近で育つため、背の高い外来種やササ類などの繁茂は脅威となります。保全する場合は、「適度な草刈り」を行うことが大切です。

特徴

- ☆ 林のふちや野原など、日当たりの良い場所に多く生える多年草です。もともと山林だった場所が伐採され、日当たりが良くなると突然大発生することもあります。しばしば同じ仲間のキジムシロと一緒に生えています。
- ☆ 多年草ですが、冬期は地上部が枯れて休眠します。早ければ3月ごろから芽吹きはじめ、4~5月ごろに黄色い花を次々と咲かせます。どことなくヘビイチゴ類にも雰囲気がありますが、果実期になっても赤いイチゴにはならず、小さな茶色いタネがぼろぼろとこぼれ落ちるのみです。
- ☆ 花後、地面をはう茎を長くのばします。茎の節々から根を下ろし、子株をつくりながら増えていきます。もちろんタネでも増えていきます。

市内の分布状況

市内全域に分布しますが、数は多くありません。昔ながらの自然環境が残されているところに限られます。



幻の味、ツチグリ

ミツバツチグリの「ツチグリ(土栗)」は、西日本に自生する同じ仲間の野草です。太い根茎が食用になり、焼くとまるで栗のような味がするため、そう呼ばれるようになりました。ミツバツチグリも根茎が多少太くはなりませんが、残念ながら食用にはなりません。そしてさらに残念なことに、自生環境の悪化とともにツチグリはすっかり数を減らしてしまい、今や絶滅危惧種です。



花びらは5枚

春、芽吹きとともに花が咲く



副がく片
がく片

がく片(がく)の外側に5枚の副がく片がある



小葉は3枚

しょうよう小葉



花びらの枚数が多い

品種

ヤエノミツバツチグリ



副がく片は開いたまま

花が終わるとがくが閉じて、その中でタネが育つ



花の後に地を這う茎がのびる



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

